

地図データを利用し、アプリで表示した場所で鹿児島市の昔の姿を確認できる。



ポイント

近代編

戦後、復興し発展してきた鹿児島市の歴史を、その場で見ることにより肌で感じることができ、伝えたいこと、伝えていくべきことが、映像を通して理解できる。

明治維新編

明治維新に関連する場所（石碑のある場所や城跡等）で写真の代わりにCGで制作した当時の風景・町並や、大河ドラマの一場面をスマホに表示することで、その時代のその場の空気を感じることができる。

市民だけでなく、観光客にも新しい観光資源としてPRできる。

実現性

GPSによる位置の特定により、その場所の風景や過去の写真をスマホの画面で見られるようにすることは可能と思われる。

生家跡などの石碑の場所は、実際には公園や広場だけがあり、どんな場所だったのか想像するのが難しい。バーチャルな空間の中に構築できる世界を垣間見られれば、実感できるのではと思われる。

維新の偉人達はこんな場所で生まれ、育っていったのかと身近に感じられる。

写真やCGによる町並は、随意更新し、増やしていくことで、バーチャル空間の範囲を拡大していくことができる。

大河ドラマとのタイアップが可能となり、ドラマの一場面を、その場で見られるようになれば、市内だけでなく奄美での生活の場所や、東京の薩摩藩邸の様子、鶴丸城や西南戦争の動画など、ドラマの展開に応じて、1年間を通して随時更新でき、観光客のリポートも考えられる。

できれば、「ポケモンGO」とは逆のパターンで、バーチャルリアリティの世界を背景に、自分たちがその中に入っている写真を撮影できたら面白い。